

生徒が「わかった!」を楽しんでいく 「深く読む」「話し合って思考を深める」授業

わかりません、とすぐ思考停止してしまいがちな生徒にも、文章を読んだり意見を出し合ったりすることで「思考を深める」ことの楽しさを届けたい。国語の授業でそんな深い学びに挑戦してきた先生の事例をご紹介します。

取材・文/松井大助
撮影/加来和博



国語
平川裕美子先生

子どものころは、図書館の本を全部読もうとするほどの本好き。大学生のときに、友人とともに塾を立ち上げ、講師業務から入塾の面接まで、運営全般に携わった。卒業後、講師を経て、正規の教員に。現任校では研修主任を務め、進路指導部にも所属する。

もっと深く考えられるはずが「わからない」と答えてしまう

今年度から八女工業高校に赴任した平川先生は、春に生徒に対して感じたことがある。「自分の考えを言葉にするのは、あまり得意ではないかな」ということだ。

八女工業高校は、優良企業や公務員に人材を輩出していて、地域の期待も高い。生徒も就職に向けて一生懸命勉強する。だがそんな生徒たちでも、国語の授業で意見を求めると「わかりません」と答えたり、単語でたどたどしく答える。

似たようなことは前任校でもあった。生徒に問題集の課題を出すと、選択肢のある問題はできても、記述問題では空欄が目立った。評論などの文章の読み方は表層的で、字数制限内で本文を抜き出す問題では、全体の趣旨はよくわからないまま、当てはまる箇所だけ探そうとする。

平川先生は、こうした状態を「わからない」のではなく「考えていない」のとらえた。「文章を読んで考える」楽しさや、「考えたことを表現し、みんなと話し合っただけ」に思考する「面白さ」を知らないから、本当はもっと力があるのに、深く考えることを面倒くさがっている。

国語の授業で目指しているのは、生徒にその壁を乗り越えてもらい、思考力や表現力を一段高めることだ。その意図を、平川先生は授業で生徒にこう伝えている。「今の社会では、チームで協力して課題を解決していく力が求められています。私は国語の授業で、あなたたちにそのた

めのコミュニケーション力や課題発見・解決力をつけてほしいと思っています。具体的にはどうすればいいか。みんなが課題を話し合うには、まず「自分の考えをもつ」ことが大事。自分の考えがないと、意見を述べたくても話せないよね。だから授業では、文章を読んで考えをもつことから始めましょう。そのうえで「考えたことをもとに話し合う」ことをします」

**読む・考える・表現する
そのサイクルで学びを深める**

平川先生の思いは生徒にすぐ通じたわけではない。1年生の授業で「わかりません」と答えた男子に、「わかりませんがダメ」と返すと、彼は「わからないことをわからないと言っちゃいけないんですか?」と困惑したという。平川先生は「言い方が悪かったね」と断り、「わからないは考えることを諦めること。少しでも言葉にすることから始めよう」と呼びかけた。

1学期のうちは、文章を読んで自分の考えをもつことに、多くの生徒が手こずった。人前で発表させてみても、内容は短く、本人はすごく恥ずかしそう。

けれども、授業構成を固定化し、単元ごとに文章要約・文章読解・スピーチをくり返すと(図1参照)、生徒たちは読んで考えて話し合うことを楽しむようになったり、発表もいきいきとするようになった。

平川先生が授業構成で意識している点は3つある。ひとつは、単元の最初の授業で「文章を読んだあと、最後に○○のテーマについて自分が考えたことを各自

図1 授業構成の型(1年生「国語総合」の単元の流れ)

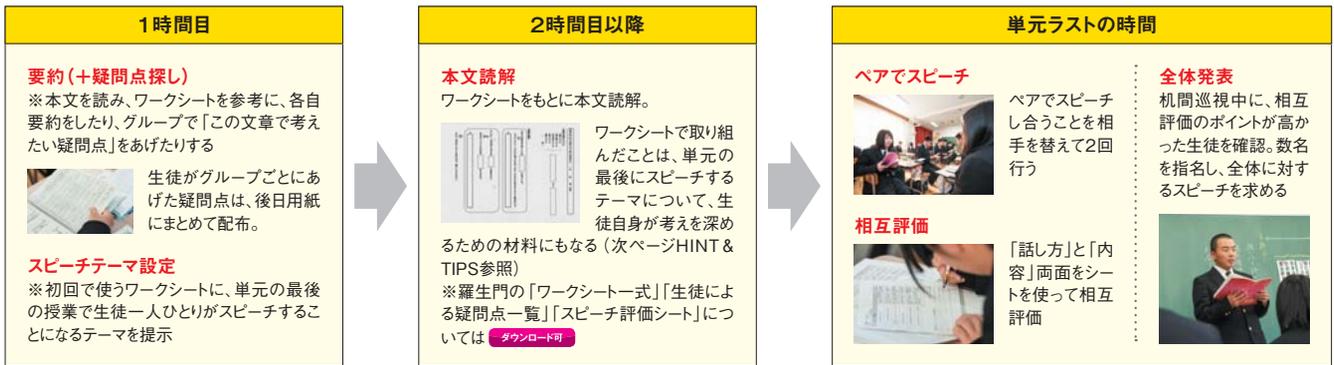


図2 読み方や意見の組み立て方の段階的な学習

5月	<p>【教材】論評「何のために『働く』のか」 【読み方】要約の仕方を学ぶ／本文のキーワードを探す／生徒一人ひとりの要約を、まずはペアで、次に全体で検討する 【スピーチテーマ】この文章のキーワードを抜き出し、それについて思うことをスピーチしよう(条件: 自分の体験例を入れて意見を述べる)</p>
9月	<p>【教材】評論「水の東西」 【読み方】要約に改めて挑戦／要約をペアで、次に全体で検討 【スピーチテーマ】この文章の着眼点の面白さはどこにあると思うかスピーチしよう(条件: 本文を引用し、それが面白い理由も説明し、自分の意見も述べる)</p>
11月 ~ 12月	<p>【教材】小説「羅生門」 【読み方】朗読CDを聞きながら各自が疑問に思うことを3つ探す グループでこの小説を読んで解決したい「疑問点」を決める 【スピーチテーマ】疑問点に対する答えを出したうえで、「羅生門」の主題について考えよう(条件: 表裏面で見つけたことなど根拠を示しながら意見を述べる)</p>

※読み方やスピーチの意見の組み立てについては、赤字部分のように段階的に経験値を上げていく

図3 生徒のスピーチ抜粋

<p>私は、羅生門の主題について、人間のもつ善と悪の両方を出していると考えました。その根拠は、下人の、死人の髪の毛を抜く老婆への憎悪が善、老婆から追いはぎをすることが悪だと思ったからです。(後略)</p>
<p>私は、羅生門の主題について、人間の気持ちは他人の影響を受けやすいと考えました。その根拠は、原典の今昔物語集では男が取った行動を淡々と書いているのに対し、羅生門では場面場面の心情描写が細かく書かれているからです。(後略)</p>
<p>私は、羅生門の主題について、人の心は、まわりの環境や他人の言葉でどうにでも変わってしまうのだと学びました。その根拠は、本文で描かれている舞台は、天災などで荒れはた京都で、悪を憎む心をもつ下人でさえも悪に染まったのは…(中略)自分の言葉で相手の心が良くも悪くなるので、発言には十分に気をつけたいです。</p>
<p>私は、羅生門の主題について、迷いがあるために与えられる第三者からの影響だと思いました。(中略)私は、自分の考えをしっかりとせず、迷ったあげく、判断を他人に任せる部分があります。私はこのままだと、自分の人生を他人にコントロールされてしまう可能性があることに気づきました。</p>
<p>私は、羅生門の主題について、つらいときこそ踏ん張ることが大切だと思いました。(中略)私も、きついことや辛いことがあったときに、逃げたことがあります。でもそのあとは後悔や言い訳しか残らず、すっきりしませんでした。やり遂げたときや我慢できたときは、達成感や充実感が自分のなかに残りました。これから大変なことがあっても、中途半端に投げたりせずに、自分自身の成長につなげていきたいです。</p>

スピーチします」とアウトプットを予告することだ。そうすると、以降の文章読解では、各生徒がスピーチテーマを胸にぎざみ、その点を自分の頭で考えながら主体的に文章を読むようになる。

2つ目は、文章の読み方や意見の組み立て方については、さまざまな手法を段階的に学んでいくことだ(図2参照)。

3つ目は、スピーチの評価・振り返りを必ず行い、活動自体が目的にならないようにすることだ。授業で何を待たか、何がまだ足りないかを明確に意識させた。

11月から取り組んだ小説「羅生門」では、生徒たちが読んで疑問に思った点をあげ、次にグループで話し合い、班ごとに

一番解決したい疑問を絞り込んだ。それらの疑問点は、平川先生が聞いたかった発問と見事に重なったという。そのうえで、時間をかけて本文を読み込み、グループごとに、根拠にもとづいて疑問点を解消することに挑戦した。

迎えた単元最後の授業。前から設定されていたテーマ、「羅生門の主題は何か」について各自がスピーチすることになった。生徒たちはまず、ペアを組んで発表し合い、ルーブリックを使って相手の「話し方」「内容」をABCで評価した。平川先生が「もうちょっとな部分にCをつけるのは相手への思いやりでプレゼント」と再三言ってきたので、余計な気遣いはいら

ない。次いで、高評価だった数名がみんなの前でスピーチをした(図3参照)。

それを受けて平川先生がまとめる。「場所は平安京の入り口、時刻は暮れ方、主人公は大人と子どもの過渡期。共通するのはどんな設定? 境界線。では何の境界線? そうなんだよね。作者の芥川が書きだしたのは善と悪の境界線。本当の名前は羅城門なのに羅生門にしたのは? 生きることを描きたかったからだね。みんなが発表してくれたように、人間は善と悪の境界を生きている。まわりに影響される弱い一面もある。そのなかで何をどう判断し、どう生きていくのか。そうしたことが羅生門の主題といえますね」

■ 八女工業高校(福岡・県立)



School Data

電子機械科・自動車科・電気科・情報技術科・土木科・工業化学科 / 1920年創立
生徒数(2016年度)715人(男子602人・女子113人)
進路状況(2015年度実績)
大学8人・短大1人・専門学校19人・就職205人
〒833-0003 福岡県筑後市羽犬塚301-4
TEL 0942-53-2044
URL <http://yameth.fku.ed.jp/>

Outline

各学科の特色を生かした資格取得に力を入れており、ものづくりコンテスト、ロボット競技など各種大会に積極的に参加し、九州大会や全国大会にも出場。工業系の生徒の資格・検定合格および競技会などの成績をもとに表彰する「ジュニアマイスター顕彰制度」では、9年前に前期日本一になり、以来全国屈指の成績を収めている。近年は毎年就職率100%を実現。公務員になる生徒も多い。



活動をやりっぱなしで 終わらせないために

英語科
堀 健太郎先生

僕が平川先生から一番影響を受けたのは、授業をどのようにデザインするかです。積極的に動かないと、何も変わらないんだと実感しました。本校では生徒から授業アンケートを取っているのですが、今年度は、研修主任である平川先生が教科ごとに細かく分析してグラフ化してくださったんですよ。本当にすごいなと思いました。

授業の話もよくします。卒業したら社会に出る生徒が多い学校では、入試対策の授業が中心になると実用的ではないと思います。生徒が学ぶことを楽しめるようにしたくて、例えば僕の授業では、会話を通して嘘つきを当てる「ワンナイト人狼」というゲームを英語でしています。ただ、やりっぱなしの活動では何が目的なのかかわからなくなります。その活動の何をどう評価するのか、考えることも大事。そうしたことも含めて、教科の枠を越えて話し合っています。

「授業がよくわからなくて苦しい」といった思いを生徒にさせたくない」

国語の教師になったとき、平川先生が第一に目指したのはそのことだった。学校の現場で、学びが深まるほど自分に自信をもち、大きく変化するという生徒の成長のさまを見るにつけ、「授業の責任と可能性」を強く感じたからだ。

大学を卒業したのは、教員採用がほとんどなかった時期。まずは講師として勤

務した。1校目は現任校でもある八女工業高校で、ここで平川先生は、理想をなかなか実現できない壁にぶつかる。工業高校で、卒業後は就職が一般的なので、生徒のなかには専門教科に力を入れ、国語には興味を示さない子がいた。進学しないので「入試に出るよ」という発破もかけられない。そういう生徒に、国語を学ぶ意義と面白さを届けたかった。

講師3校目では、企業研修に行った同僚の先生の話から、新たなヒントを得た。「その先生は、商品の箱詰め作業をした

ので、『どの時間までいくつを何のたに箱詰めするのかはわからず、ただやらされてつらかった』と言っています。学校の授業も、全体が見えないままその場で読むことや覚えることをやらされるなかでそれがどう役立つかわからな

「授業がよくわからなくて苦しい」といった思いを生徒にさせたくない」

授業の活動の意義を
生徒が感じられるように

授業ができるまで

僚の先生の話から、新たなヒントを得た。「その先生は、商品の箱詰め作業をした

ので、『どの時間までいくつを何のたに箱詰めするのかはわからず、ただやらされてつらかった』と言っています。学校の授業も、全体が見えないままその場で読むことや覚えることをやらされるなかでそれがどう役立つかわからな

「社会のことにもアンテナを張ろう」と

「社会のことにもアンテナを張ろう」と



1 発表に対する条件や評価項目を工夫し 自分に結びつけて読んで考えることを促す

読んだことや調べたことの発表では、既存情報を抜き出しただけで、生徒自身はどう思うか「考える」ことをせずに終わることがある。だから平川先生は、発表に「体験例を入れる」「根拠を明らかにする」などと条件をつけたり、評価項目に「自分なりの考えが入っているか」を入れたりしている。

2 今回の教材で一番考えてほしいことを 根拠にもとづき生徒自身が考えるように導く

平川先生は教材で一番考えてほしいこと(例：羅生門の主題)をまず設定し、「そこを生徒が自分で考えるには足がかりとして何を思考すればいいか」(例：原典との違い)を思い描き、ワークシートを作る。生徒はシートに取り組みと最終テーマを考えるヒントを自分で発見していけるので、謎解きのような感覚を味わう。

3 学び合いや生徒のアウトプットの共有で 生徒同士で思考を深めていく機会を増やす

スピーチの授業でも新聞記事の授業でも、生徒たちは意見を出し合い、話し方やその内容をお互いに評価までする。また、代表に選ばれた生徒の発表内容は、原稿起こしをさせて配布して共有もする。そのように授業でさまざまな人の意見や見方にふれて思考を深めることも、平川先生は大事にしている。

4 生徒の実態をつかんだうえで その生徒たちに必要だと思う授業を展開

平川先生は、生徒に合わせて授業を変えている。八女工業高校では、新聞を読む授業を3年生に実施。「社会に出る前に専門性だけでなく視野も広げてほしい」ためだ。一方、普通高校では同じ授業を1年生に行った。「早めに社会に目を向けさせて進路選択の幅を広げ、キャリア教育につなげる」ためだ。



生徒がニュースキャスターに扮する授業は、1コマを①新聞記事の要約+意見(15分)、②グループ内で原稿読み上げ→相互評価→代表者選考(25分)、⑤全体発表(10分)という構成で実施。そのなかで要約の仕方、意見の組み立て方(小論文の型)、伝え方などを段階的に学ぶ。ワークシートや評価シート **ダウンロード可**。

ヒロは窓口に3000円を出した。

アヤカは1500円を渡そうとしたが、彼は受け取らなかった。

中でまず席を取ると、アヤカはジュースを二つ買ってきて一つを彼に渡した。

彼は喜んでそれを受け取った。

読解力の源を体感できるスライド。生徒はこの文から、場所は「映画館」、ヒロとアヤカは「カップル」で、お金を受け取らないのは「おごりたい」から、アヤカが買ったジュースをヒロが喜んで受け取ったのは「お礼と感じたから」と、書かれていない情報まで読み取る。文章読解力や思考力の根底には知識に支えられた思考の枠組みが必要であることを伝えるための説明。



選択科目「国語表現」を学んでいる1年生の皆さん

伝えたくて原稿にしたことを理解してもらえると楽しい

— 記事を要約し、自分の意見も入れて、原稿を読み上げる。最初からうまくできましたか？

「最初のころは、自分の意見は『何々がいいと思う』とか、そこらへんまでしか出てこなかったんですけど、回数を重ねるうちに、記事を要約するなかで『こういうところが問題』とか浮かんできて、書けるようになりました」

「賛成・反対を言ってから理由を述べるとか、意見の組み立て方もいくつか学んだのですが、それに当てはまらないパターンも出てくるので、そのときはまた自分なりに考えました」

— 人前で読み上げるのはどうでしたか？

「はじめはガチガチに緊張しました」
「恥ずかしくて抵抗があったんですけど、数をこなすうちに楽しくなってきました」

— 何が楽しいのでしょうか？

「自分が一番伝えたいことを原稿にして、それを話したら、相手に理解してもらえた、というのが、面白くなってきたんです」

「就職したら人前で話す機会も増えるし、自分のプラスにもなっていると思います」

— 読むときに気をつけていることは？

「相手にわかりやすい言葉で伝えることです」
「抑揚とか、イントネーションです」
「まわりを見て、気持ちを伝えることです」

「『情報をまとめた原稿を読むだけ』の選科科目「国語表現」で、ニュースキャスターに扮する授業を実施。その経験を、就職の試験や面接で生かすこともできたといい。また、授業を見学した教育関係者からは、こんな声が寄せられた。

「生徒が『できた』と感じたとき。読めたとか話せたとか。一番は『わかった！』と思えたときですね。その楽しさを知ったことで『もっと読みたい』『もっと話せるようになりたい』となつてほしい。国語の授業が、生徒が自ら学ぼうとするその足がかりになればいいと思っています」

生徒のほうも手ごたえを感じているようだ。小説『羅生門』を読んで考えて

「わからなかったことをわかることができた。どの班も話し合いでいい答えを出せていたのでまた次もしたいと思った」

「まだ解決できていない疑問もあるので、もっと細かい部分まで読んで解決したい」

「これからもっと他の文学作品も自分で読んでいきたい」

生徒が深く読んで深く思考したくなるような授業を目指して、教材を再構築する。平川先生はその授業準備を「ひとつの作品づくり」と感じているという。

生徒はこう変わる

読んで話し合うことで思考を深めていく

スピーチやニュースキャスターの授業に取り組むと、前任校でも今の学校でも、明らかな変化が見られるようになった。

「みんなすごく上手になったよね。そうして自分の考えを言えるようになったのだから、もっと伝え合つて磨き合えば、より考えを深めていけると思うよ」

平川先生が授業をしていて嬉しくするのは、このような活動を通して「生徒たちが自信をもてたとき」だという。

「よく考えて読まない」と解決できなかった。疑問点を自分たちで考え、解決した。こんな授業は初めてでとても楽しかった」

「いろいろな人と意見を出し合い、共有することの楽しさを知ることができた。いろいろな表現の仕方や、新しい言葉と出会うことができてよかった」

発表が一つもなく、「自分の言葉で考えを話そうとしている」のが伝わってきた」

さっそく平川先生はそのコメントを生徒たちともシェアして称賛した。

きた1年生は、授業の振り返りシートに、次のような記述を残している。



授業で生徒につけたい力

	知識	能力	意欲・態度
つけたい力	<p>小説・評論などの読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現法(比喩・擬人法) 風景描写=心情描写 新聞の紙面構成、面立 <p>語彙</p> <p>文学史</p> <p>社会についての幅広い知識</p>	<p>想像力／考え抜く力</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で文章を読み、物事を心に思い浮かべたり、根拠をもって推し量ったりする(想像力) 授業で文章を読み、疑問点をあげ、その疑問をみんなで話し合つて解消していく <p>要約力／伝える力／傾聴力</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で文章を要約し、自分の意見を加えて原稿にまとめ、生徒同士で発表と傾聴をする 	<p>文章を読むのが面白いという感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで気づきを得る面白さを味わう <p>自分の意見をもち、伝える楽しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見を述べて理解されたときの嬉しさを体感 <p>人の意見を聴くことの楽しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の意見から気づきを得る楽しさを味わう <p>社会に目を向ける態度</p>
その力が将来にどう生きるか？	<p>物語の表現意図を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> 小説や映画やドラマなどを、作者がその表現に込めた意図を読み取って一層楽しめる <p>情報収集が的確にできる</p> <ul style="list-style-type: none"> ニュースを理解することや、仕事相手や友人のメッセージを的確に読み取ることができる <p>文章や社会事象への理解力が高まる</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の読解力も、社会に対する理解力も高まる 	<p>見通しをもった行動ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな資料をもとに根拠をもって先のことを予測し、見直しをもって行動できる <p>チームで課題発見・解決に取り組める</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を見つけ仲間と話し合つて解決していける <p>人と向き合う柔軟性が高まる</p> <ul style="list-style-type: none"> 主張もすれば他の意見にも耳を傾け、思いを共有したり立場の違いを理解したりしていける。 	<p>読書や表現を楽しんでいける</p> <p>語彙力を伸ばすエネルギーになる</p> <ul style="list-style-type: none"> 読むことや聴くこと、伝えることをもっと楽しむために、語彙を増やしたくなる <p>より良い社会を構築していける</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会に関心をもち、自分ごととしてとらえて、より良い社会の構築を目指すことができる